

ミレニアム・ビレッジ・ プロジェクト

第二フェース： 2011年～2015年

発行： Millennium Villages

millenniumvillages.org

翻訳： ミレニアム・プロミス・ジャパン

ミレニアム・ビレッジ・プロジェクトの紹介	3
第一フェース 2006年～2010年	10
5年間の活動と成果	
I. 成果概要	10
II. 成果測定	18
III. 包括的で低コストのモデルの実施	23
ミレニアム・ビレッジからのレポート	25
イノベーション	28
技術的なブレーク・スルー、イノベーション、影響	
I. 開発を促進するための新たな技術の適用	29
II. 新たなツールと技術の利用	29
第二フェース 2011年～2015年	34
前進するミレニアム・ビレッジ・プロジェクト	
I. ビジネス開発の支援	35
II. リアルタイムの情報システムのデザイン	37
III. オープンソースのツールと技術の開発	38
IV. 完全な地元によるオーナーシップ制への移行	39
資金調達モデル	40
成長の拡大と維持	42
I. ミレニアム・プロジェクトの拡大	42
II. 国連とのパートナーシップ	48
結論	51

➤ ミレニアム・ビレッジ・プロジェクトの紹介

ミレニアム・ビレッジ・プロジェクト（以下MVP）は、2005/2006年に、最貧のアフリカ農村地域でミレニアム開発目標（以下MDGs）を達成するためにスタートされました。プロジェクトが始まる以前は、貧しい村々にとってMDGsは行程表のない単なる希望にすぎませんでした。MVPは2015年までのロードマップを示しています。目標年まで4年を残すこのプロジェクトは、MDGsを達成に向けたアフリカ最大の体系的、かつ科学的な試みとしてユニークな存在です。

サハラ以南の10カ国の農村地域に住む50万人近くの人々に働きかけるMVPは、ダイナミックでグローバルなパートナーのネットワークから支援の下、コロンビア大学地球研究所がプロジェクトの中核となる科学的・政策的リーダーシップを、またミレニアム・プロミスが運営上のリーダーシップをとっています。

MVPには3つの包括的なゴールがあります。一つ目の、そして最も基本的なゴールは、ミレニアム・ビレッジ（以下 MV）のコミュニティと地元政府を支援して2015年までにMDGsを達成できるようにすることです。MDGsは世界の達成すべき明確な量的目標です。MVPのゴールは2015年までに全サイトでこのMDGsを全て達成することです。

MVsのコミュニティは2015年のMDGs達成に向けて順調に進んでおります。貧困、飢餓および疾病との戦いで大きな成果をあげ、所得が増加する一方、飢餓は減少しており、健康状態も改善しています。しかし、当然ながらサイト毎に改善のペースは異なっています。

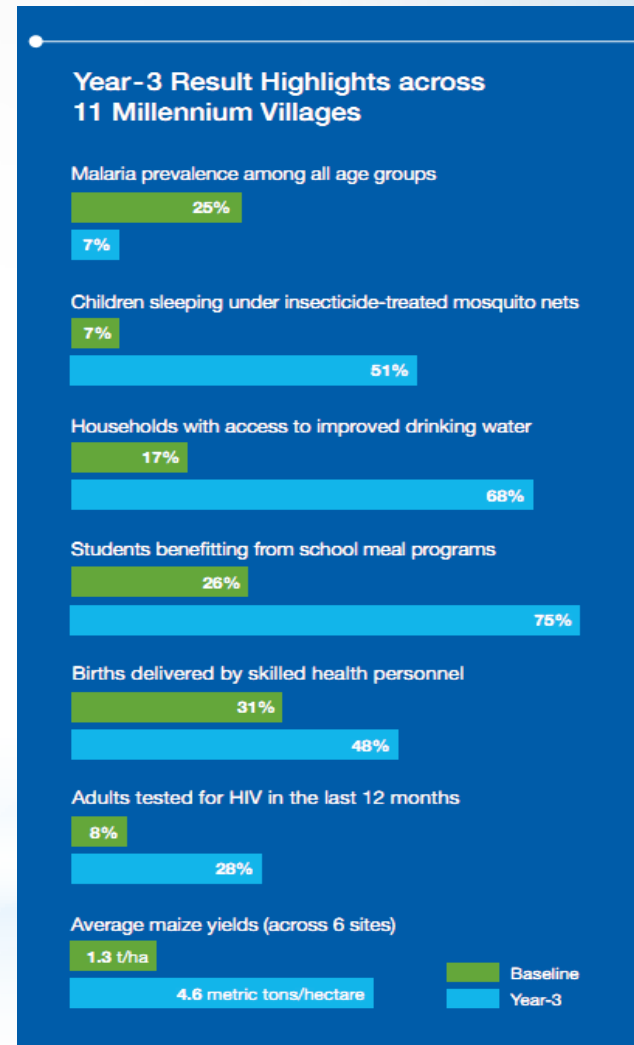
ミレニアム・ビレッジの統合的な開発戦略を他の国でも実施できれば、国連ミレニアム開発目標は達成できます！ 国際連合事務総長・潘基文氏のスピーチ（2010年5月29日 マラウイにて）



ミレニアム・ビレッジの地図



11のビレッジにおける 成果のハイライト (Year-3)



MVsのロケーションを選ぶ際には、様々な自然環境、文化及び農業システムを網羅するよう考慮しています。そのためセクターを超えた包括的な手法が、各コミュニティの戦略の全般的な枠組みとして示されてはいるものの、各地域の気候、地形、疾病負担、中心地からの距離や国家インフラの欠如のもたらす固有の課題が、介入の実施や進展のペースに影響を与えています。とは言うものの、全てのサイトで大きな進展がみられます。

二つ目のゴールは、成功するためのシステムを作ることです。ここで言う「システム」にはMDGsを達成するための明確に定義された道筋だけではなく、より広義にMVsから他のアフリカの農村地域に移転出来る「ツールキット」も含まれます。すなわち組織戦略（例えばコミュニティ・ヘルスワーカーを展開するための詳細システム）、特別にデザインされたソフトウェアや、進捗を記録した上でリアルタイムで問題を解決するための情報システム等です。またこのようなツール一式を詳細に文書化し、MVPのシステムを採用したいと望む他のコミュニティや政府が利用できるようにする必要もあります。

三つ目のゴールは、アフリカ各国・各地域の政府と協力してMVPの介入と成果を拡大し、MVPから得た教訓が大陸全域で迅速に実施されるようにすることです。MVPのチームは、中核的MVPサイトで成功を収められるように努力すると同時に、MVP型システムを拡大するためにMVサイトを越えたアフリカの様々な地域で活動しています。MVPはアフリカ全域で政策の策定と実施に重要な影響を与えています。

MVPは5千から7万人規模のコミュニティで活動する複雑なプロジェクトです。他の開発イニシアティブとは異なり、MVPは新規の介入を単独でテストしたり導入したりはしません。MVサイトでは数十の科学的根拠に基づく介入が同時に実施されています。介入は農業、保健医療、教育、インフラ（水と公衆衛生を含む）およびビジネス開発の5つのセクターで実施され、各介入を組み合わせで最大限の成果を出せるよう、システムや技術を開発し、利用しています。さらに全てのプロジェクト活動において、男女平等と環境の持続可能性に配慮しています。

どのサイトについても介入や実施システムの固定的な青写真はありません。各コミュニティ特有の優先課題を解決するためには、一連の介入と実施システムを地元コミュニティと一緒に策定する必要があります。そこでプロジェクトでは多くの時間が一連の介入をどのように実施すればよいのか、地域を理解することに費やされます。MVPは「行動を通して学習する」、各コミュニティの現状に合わせたプロセスを特徴としています。プロジェクトは切迫感を持って極度の貧困を終わらせようとしています。それは2015年までにMDGsを達成するという厳しい目標があるからです。したがって、MVsでの成功を出来るだけ短期間でアフリカ全域に拡大できるよう、プロジェクトは迅速に進められています。この意味で、MVサイトでのプロジェクトの推進とアフリカでのプロジェクトの拡大は同時並行的に行なわれていると言えます。

プロジェクトを迅速に進める一方で、MVPはプロセスの厳格な適用にももちろんコミットしています。MVsで起きていることは全て注意深く文書化されており、その文書を通して我々は（保健医療、農業、学校等の）システムが実際にどのように運営されているのかを理解し、成功のためにどのような核となるスキルやトレーニングが必要か、学ぶことが出来るのです。プロセスの一環として、MVPは一連の手続き、手引書、コンピュータのプログラム、データ・セット、および科学的な出版物を作成しています。このようなツールに支えられ、たとえばナイジェリアでは国家レベルで、また東アフリカの牧畜地域でも、さらにMVPに次々と加わっている国々でも、MVPのシステムが素早く適用されています。

第一フェース（2006年半ばから2011年半ばまでの5年間）では、各MVで基本的なシステムが導入され、飢餓やマラリアの蔓延が改善され、より安全な水、医療及び初等教育へのアクセスが増える等、急速な前進が見られました。次フェースの5年間（2011年半ばから2015年末まで）では、第一フェースの成果を足掛かりにして、2015年までにMDGを確実に成功させる事を目標にします。最初の5年間で、プロジェクトは5つの主要セクター全てにおいて、成果をあげました。たとえば道路、より安全な飲料水システム、改善された公衆衛生、無線接続および自家発電システム等の主要なインフラが整えられました。また 学校や教室の建設、教師向けの研修の実施、診療所の開設、コミュニティ・ヘルスワーカーの配置、主要農作物生産の大幅な改善などの進展も見られました。

プロジェクトは、開始から5年で、コミュニティ主導の開発のための統合的取組みという基本概念が実現可能であることを示しました。当初の批判をよそに、MVsは多岐に渡る複雑な課題に対して開発活動を実施し、成功を収めました。献身的で熟練したアフリカ人の専門家たちに率いられたMVチームの成功は称賛に値します。また、MVPの成果を受けて、統合的農村開発は再び農村開発戦略の最前線および中心に据えられることとなったのです。

しかしながら、第二フェースでもやらなくてはならないことは数多くあります。第一フェースで導入された様々なシステムは、現在全てのMVsで機能していますが、微調整や改善が必要です。わずか5年で多く進展が見られましたが、MDGsを達成するためには、やらなくてはならないことがまだまだあります。

次に、それまでの急激な進展を維持しつつ、プロジェクトを2016年以降も確実に持続可能なものにしなくてはなりません。そこで次のフェース（2011～2015年）にやらなくてはならないことのひとつが、MVPから地元コミュニティへの寄付を段階的に減らし、他方ホスト国、NGO等のパートナーやコミュニティ自身の資金拠出を増やすことです。

三つ目の優先課題はビジネス開発に一層焦点を当てて、コミュニティの所得を増大させることです。第一フェースでは改良種子を取り入れ、土壌管理を強化し、また農業慣習を改善することで、コミュニティは貧困からの脱出の第一歩を踏み出しました。主要農作物の生産は大幅に増え、飢餓も減りましたが、このような成果も貧困を撲滅するためには十分ではありません。所得の創出をさらに進めるためには、たとえば多毛作を可能にするような灌漑や価値の高い作物の生産に投資するなど、今まで以上に農業投資が必要です。

2015年に向けての四つ目の主要なゴールは MVPから学んだ重要な教訓を、全てをオープン・ソースのオンラインのツールキットや科学的な出版物として文書化することです。プロジェクトの目的は単にMDGsが達成可能であることを証明することだけではなく、アフリカ全域にMVPのシステムを拡大することです。そこで成功のカギとなるツールは簡単に再現し、適合させ、さらに拡張することができるものでなくてはなりません。

第二フェースの4つのゴール（システムの改善；成功を2015年までに達成し、その後も持続させる；ビジネス開発；及び 広範囲に再現する）はプロジェクトの枠組みに組み込まれており、プロジェクトは運営面でこの4つのゴールを支えています。たとえば、各セクター（農業、保健医療、教育、インフラおよびビジネス開発）のチームが導入したシステムを注意深く文書化することで、その再現・拡張が容易にでき、またプロジェクトは長期的な維持可能性という目的が組み込まれた5カ年予算の枠内で活動しています。新規ビジネス開発の要としてコミュニティ・ベースの農業協同組合の立ち上げ・支援にも力を入れています。さらに、MVPの活動と並行して、アフリカ全域への拡大イニシアティブも実施しています。そして、最後に プロジェクトはMVsの成果の適時・正確な報告に力を注いでいます。これは科学的な厳格さを維持すると同時に、世界中の開発従事者、専門家やパートナーと情報を共有するためです。

第二フェースでは、ニューヨークを本拠地とする地球研究所やミレニアム・プロミスのチームから、東・南アフリカMDGセンター（ナイロビ、ケニア）と西・中央アフリカMDGセンター（バマコ、マリ）の2か所の現地MDGセンターへ、プロジェクトの運営責任をシフトしていきます。また、今後はプロジェクトの直接の監視の下、MDGセンターの科学・運営チームを増やす予定です。ニューヨークにいる科学者やマネージャーはもちろん、2つのMDGセンターで最前線に立つリーダーたちも積極的に支援していきます。

バマコやナイロビ、さらにMVのリーダーたちを支援していくために、MVPの創設パートナーである地球研究所とミレニアム・プロミスも互いの関係を強化し、前者がプロジェクトの科学的・政策的リーダーシップの責任を、また後者が運営上のリーダーシップの責任を負っていきます。また、他のパートナー、国連機関、企業、民間基金、NGO、科学者およびその他の国際的な開発の専門家も、以前から重要な役割を果たしていましたが、これからも果たして行きます。最前線の活力を取り込んでプロジェクトを成功させるためには、このようなパートナーシップが不可欠です。

ジェフリー・サックス
コロンビア大学地球研究所 所長
ミレニアム・ビレッジ・プロジェクト
ディレクター



➤ 第一フェース5年間の活動と成果

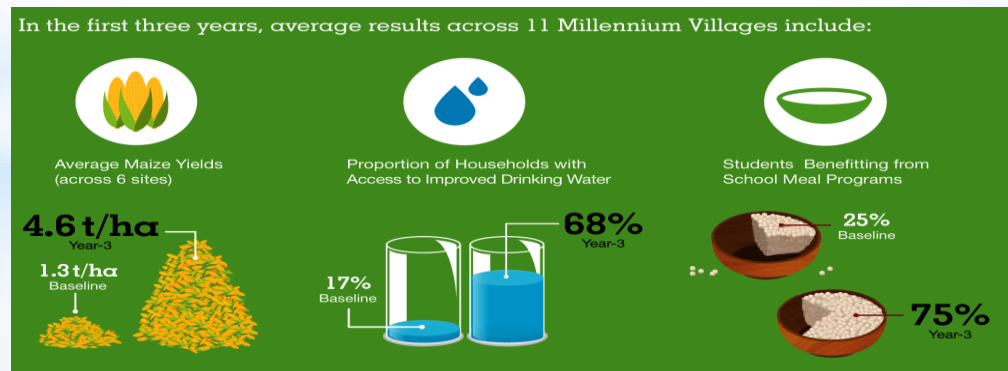
MVPの開始から5年間の各セクターにおける活動と成果を、以下に紹介します。プロジェクト初期の試みには蚊帳の配布や肥料補助などの即効性のある介入が含まれ、その後の活動の基礎が築られました。ビジネス開発などの将来に向けて重要な長期的な試みも、一部この時期に始められました。

【I. 成果概要】

・ 農業&ビジネス開発

農業セクターでは 改良種子や肥料等のインプットと並行して農家に研修を施し、その結果、プロジェクト開始から数年でトウモロコシの生産が少なくとも2倍から、一部地域では4倍に増加し、慢性的な栄養不足（成長阻害）が3分の2に減少しました。

一部のMVでは、農業協同組合が世界食糧計画（WFP）を含む地域の買い手向けに余剰作物の販売を始め、WFPは2009年以来500トン以上の豆と穀物をグムリラ（マラウイ）、ムワンダマ（マラウイ）およびボンサソ（ガーナ）から購入しました。さらに学校給食に余剰作物の一部を寄付する地元農家の数も増え、生徒の75%が毎日学校で給食を食べることができるようになり、学習成果の改善にも貢献しています。



・ 教育

初等教育の就学率は全体で10%増加しました。5年間で40以上の初等学校と13の中等学校がMVP全体で新たに建設され、770の教室が増改築されました。また開始当初のゼロに近い水準から、5年目には20%近くの学校に電気が供給され、60%近くが改善された水源にアクセス出来るようになり、40%近くに男女別のトイレが設置されました。さらに先生一人が受け持つ生徒の数も12%減少しました。エリクソン社(Ericsson)などからの寄付によって得られた成果です。

・ 保健医療

保健医療セクターで大きな成果を上げられたのは、診療所が増改築され、また各診療所に水や電気等の設備、必須薬品やスタッフが適切に配置されたからでもあります。さらに救急車、携帯電話や道路の改善もこのセクターの強化に貢献しました。MVPの公衆衛生を改善する為の手法の要である無料の一次医療（プライマリー・ヘルスケア）も全てのサイトで導入され、また十分な訓練を受けた職業専門家としてのコミュニティ・ヘルスワーカーも展開されました。

上記を含む投資は良い成果を生んでいます。過去12カ月間にHIVの検査を受けた成人の比率は3倍近くに増えました。熟練した助産婦の出産時の立ち会いは妊産婦の死亡を防ぐためには重要ですが、そのような出産が全出産に占める割合はプロジェクト開始以前の31%から3年目には48%に増加しました。また、はしかの予防接種を受けた人の割合は64%から80%に増加しました。さらにMVPが防虫加工をした蚊帳を無料で配ってから3年、蚊帳の使用率は51%と、プロジェクトの始まる以前の6倍以上に増加し、その結果11のMVサイト平均で72%減と、マラリアの罹患率が大きく減りました。

・ インフラ&イノベーション

政府や民間セクターとの連携により、基本的なインフラへのコミュニティのアクセスが改善されました。プロジェクトが始まる以前は、電力網から2キロ以内に住む家庭は全家庭の20%に過ぎませんでした。現在では2倍以上に増えました。また大規模な道路や橋の建設プロジェクトによって、救急車、商人、そして住人も、以前よりも簡単に行きたいところに行けるようになりました。さらにメーター制の太陽エネルギーシステム、改良された調理用レンジや携帯電話を使ったIT技術といったイノベーションが、サービスの改善や新たな成長の機会をMVsのコミュニティにもたらしています。

・ 水と公衆衛生

5歳未満の乳幼児の2番目に高い死因である下痢性疾患の94%は、安全でない飲料水、不適切な公衆衛生と不衛生が原因であるとされています。より清潔な水へのアクセスや衛生状態を改善することで、コミュニティの健康状態が改善できると同時に、女性や子供たちの労働負担も軽減できます。MVsを横断して330マイル以上の水道管が設置され、何万もの家庭がより近場でより安全な水を手に入れるようになる等、改善された水へのアクセスが4倍に増えたと同時に、改善された衛生施設へのアクセスも3倍に増えました。

・ 男女の平等&環境

MVPはその全ての活動と介入を通して、男女平等と環境の持続可能性に特別な配慮を払っており、この二つはプロジェクト設計の中核を成しています。環境保護基準は、MVPの農業、ビジネス開発及びインフラ計画に影響を与え、灯油等の高価で汚染源となるエネルギーに代わる代替エネルギーの模索、エネルギー源としての植林、森林再生や土壌の浸食との戦い等のイニシアティブが行なわれています。同様に、MVPは婦女子が直面している社会主流化（メインストリーミング）問題についても各セクターで特別に配慮しています。さらにMVPの保健医療イニシアティブでは、妊産婦と子供の健康に力を入れており、また教育セクターの成功のためには女子の就学率の改善が必要であると考えています。

・セクター毎の活動と成果

農業	
ゴール	食料生産と所得を増加させる
活動	<ul style="list-style-type: none">● パートナー（アグリウム社（Agrium）、モザイク社（Mosaic）、ヤラ社（Yara））から提供を受けた肥料を改良種子と共に、最初は補助として与え、段階的に貸し付けに切り替えた● 農学技術の研修を農家に施した● 栄養価や付加価値の高い作物や家畜へと生産を多様化させた● 貯蔵を改善するために穀物倉庫を建設した
成果	<ul style="list-style-type: none">● トウモロコシの生産が2倍から一部のサイトでは4倍に増加し、同様の増加が他の主要農作物でもみられた。その結果2歳未満の子供たちの慢性的な栄養不足が3分の2に減少した● 農業慣習の効率性と持続可能性が改善された● 商業ベースの販売の機会が拡大された● 作物損失が減り、所得が増加し、農家の市場や業者へのアクセスが改善された



ビジネス開発

ゴール	プロジェクトの成果を持続可能なものにするために 自給自足農業から商業的農業に移行させる
活動	<ul style="list-style-type: none">● 農業協同組合を立ち上げ、金融サービスへのアクセスを提供した● 新たな収益源を特定し、事業計画を作成し、技能訓練と管理者教育を施し、バリュー・チェーンを構築した● WFPのイニシアティブである「前進のための食糧購入」(Purchase for Progress)を含む地域の買い手と関係を構築した
成果	<ul style="list-style-type: none">● 10のMVsで85以上の会社や協同組合が設立された● ボンサソ(ガーナ)のカカオ抽出、ティビィ(マリ)のメロン栽培、サウリ(ケニア)の養魚業、ムワンダマ(マラウイ)のキャッサバの製粉等のビジネスが立ち上げられた● 3サイトの穀物倉庫の余剰作物がWFPに売られ、食糧支援の必要な地域のコミュニティに提供された

教育

ゴール	教育の質を上げ、初等教育を普及する
活動	<ul style="list-style-type: none">● 学校や教室を増・改築した● 生徒の就学率、栄養状態および学習成果を改善するため、コミュニティ、テーブル・フォー・ツー(Table for Two Foundation)やWFPとパートナーシップを組んで、学校給食プログラムを始めた● 教師研修を実施し、学校にコンピュータやインターネットへのアクセスを提供した● 学校に給水所、改善されたトイレや電力を提供した
成果	<ul style="list-style-type: none">● 40以上の初等学校と13の中等学校が建てられた● おおよそ770の教室が増改築された● 就学生の75%に学校給食が提供された● 数百のコンピュータ(デスクトップ及びノート型)が学校に配られた(内200台近くはレノボ社(Lenovo)からの寄付)

保健医療	
ゴール	HIV/AIDS、結核及びマラリアの罹患率を減らし、母子の健康を改善する
活動	<ul style="list-style-type: none"> • コミュニティ・ヘルスワーカーを訓練し、診療所を建設して機材を整え、さらにベクトン社（Becton）やディキンソン社（Dickinson & Company）等のパートナーから支援を受けて、栄養状態の安全保障（nutritional security）を改善した • 蚊帳や栄養補助食品の配布や予防接種を無料で実施した • 出産前のケア、熟練した助産婦の立ち会いや救急産科ケアを通して、母体と新生児の健康に注力した
成果	<ul style="list-style-type: none"> • 過去12カ月にHIVの検査を受けた成人の比率が3倍近くに増加した • マラリアの罹患率が72%減少した • 50%近くの母親が熟練した助産婦の立ち会いのもと出産し、5年目には出産前のHIVの検査率が90%に達した

インフラと技術革新	
ゴール	近代的なエネルギー、交通サービス及び情報通信技術(ICT)へのアクセスを改善する
活動	<ul style="list-style-type: none"> • 全天候型の道路を建設・改修した • コミュニティや家庭に送電網を利用した電気や自家発電システムを提供した • 携帯電話のネットワーク・カバレッジを拡大し、エリクソン社とのパートナーシップにより、可動式のデータ・ツールを開発した • コミュニティ・ヘルスワーカーが健康状態のデータを収集したり携帯電話のサービスを使って診断を受けたりするためのチャイルド・カウント+（ChildCount+）等、革新的技術を開発した
成果	<ul style="list-style-type: none"> • 全天候型の道路や電力システムから2キロ以内に住む家庭の割合が倍になった • 母子の健康状態のモニタリングが改善された

水と公衆衛生

ゴール	より安全な水や適切な公衆衛生へのアクセスを改善する
活動	<ul style="list-style-type: none">井戸の掘削・修復、ポンプの設置や源泉を保護することで、家庭により近い場所で改善された水が手に入るようにした水道管を設置した換気設備を備えた改良型汲取り便所を建設した
成果	<ul style="list-style-type: none">改善された飲料水へのアクセスが4倍に増えたJM イーグル社(JM Eagle)の寄付でMVsを横断する330マイル以上の水道管が設置された改善された衛生施設へのアクセスが3倍近くに増えた

男女平等

ゴール	男女不平等を改善し、女性に権利を付与する
活動	<ul style="list-style-type: none">女兒の教育の重要性を親に強調した学校に男女別のトイレを設置した女兒用のクラブ等、女兒を対象とするサービスを推進した妊産婦と性と生殖に関する健康(reproduction health)に重点を置いたプロジェクトのあらゆるレベルで女性の参加を支援した
成果	<ul style="list-style-type: none">女兒の初等及び中等学校への入学・出席が改善した半分以上のサイトで男女間格差指標(gender parity index: 男児に対する女兒の入学割合)が0.97以上になり、うち4サイトで女兒の入学者数が男児の入学者数を上回った女性の経営する会社、女性の協同組合及び指導的立場にある女性の数がMV全体で増加した

ゴール	環境の持続可能性を確保する
活動	<ul style="list-style-type: none">● 植林を行ない薪を入手すると同時に、森林の再生を行なった● 収穫を持続的に改善するために 統合的な土壌肥沃度管理の慣習の研修を農家に施した● 浸食制御体制を構築して農地を守り、劣化した土地の修復を推進した
成果	<ul style="list-style-type: none">● 必要不可欠な資源を再生するため250万以上の苗木を育てた● 堆肥化、間作および適切な施肥を実施する農家の数が増加し、高い作物生産を維持できるようになった● 浸食による田畑や道路への被害を軽減するために 複数のサイトで蛇籠、堀や防壁植栽が作られた



【Ⅱ. 成果の測定】

MVPを支えているのはMDGをベースとした強固な監視・評価（Monitoring and Evaluation；M&E）の基盤です。その役割は、

- ・ 成果の測定
- ・ 介入の有効性の特定支援
- ・ 計画立案と資源配分の改善
- ・ サービス提供（Delivery）の強化
- ・ 政府に対する主な**成果**の明示

しっかりとした評価は科学と有効な政策の結び付きを強化するためにも、限りある資源の利用に関して人々の信任を得るためにも不可欠です。何億人もの人々が未だ極度の貧困に暮らす中、使われた資金の効果を最大化するためにどうすれば短期間で成果があげられるか、理解を深めることが求められているのです。

プログラムのパフォーマンスを監視し、MDGsに向けた進捗を評価し、実施の主な障害と促進要因を明らかにし、さらに介入のコストを評価するために、詳細な監視と評価の基盤が確立されています。以下にこの基盤の主要なコンポーネントを紹介します。



・ パフォーマンスの監視

パフォーマンスの監視では、介入のタイミングと順番を、また主なセクターについては月ごとの進捗も追跡します。

ミレニアム・ビレッジ・インフォメーション・システム (Millennium Villages Information System; MVIS) は、MDGsに関わる数十の指標の監視をスムーズに行なうために、特別に開発されました。データはインターネット経由でコンピュータで、または携帯のテキスト・メッセージ (“rapid-SMS” と呼ばれる技術) を使って、現場から直接収集されます。このようにして集められたデータを使って、プロジェクト・チームは医療施設での出産件数、予防接種のカバレッジ、就学率や子供の死亡率などの指標を詳しく追跡することが出来ます。

さらにチャイルド・カウント+ (ChildCount+) やバーバル・オートプシー (Verbal Autopsy) ・システムなどのモジュールをMVISに組み込むこともできます。このワンストップ・ショップの自動報告システムを使って、MVPのスタッフはリアルタイムで進捗が把握でき、必要な軌道修正も行なえます。

また学校、給水所や医療施設のGPS地図を利用した、簡単で安価なアンドロイド携帯電話を使ったパフォーマンス監視ツールもあります。提供された情報を使って、たとえばどの学校に修理が必要で、どの診療所に薬が足りないといった事柄が、スタッフ、サービスやインフラについて特定できます。MVISがこのような情報と結びつけられることで、より詳細な監視が可能となり、はしか、マラリアやコレラの発生といった脅威に対する早期警告システムとして機能させることも出来ます。

・ 影響評価

影響評価では、各MVサイトのMDG達成の進捗追跡を支援します。様々なソース（「人口保健調査」(Demographic Health Survey)、UNICEFの「複数指標クラスター調査」(Multiple Indicator Cluster Survey)、世銀の「生活水準測定」(Living Standards Measurement Study)、WHOの「栄養状況情報システム」(Nutrition Landscape Information System)や「飲料水と公衆衛生」(Drinking Water and Sanitation)等）から、最良事例を収集するための調査ツール一式をMVPが開発しました。

影響評価は二つのプロセスからなります。一つ目は十分性評価で、プロジェクトのパフォーマンスを一定の目標、ここでは10年でMDGsを達成するというもの、と比較します。もう一つの妥当性評価は、認められた変化がプロジェクトによるものか、または結果に影響を与える可能性のある広範な要因（例えば経済の一般的な変化、気候、外的ショック等）によるものかを特定します。

妥当性評価のやり方にも二通りあります。一つ目はプロジェクトの介入が成果に結びつく、影響の経路を特定するというやり方です。たとえば改良された種子や肥料を用いることが如何に収穫量や所得、さらに子供の栄養の改善に結びつくかを特定します。もうひとつのやり方では、介入を受けていない同じようなサイトや全農村地域の平均データなどの一連の参照データに対して、プロジェクトの成果を比較します。

・ プロセス評価

プロセス評価では、現地のシステムの設計や有効性を評価します。この評価を通して、次のような質問に対する答えが得られます。「どうすればコミュニティ・ヘルスワーカーは、携帯電話を使って、家庭レベルで効果的にマラリアを診断し、治療できるのか?」「農家を対象とした小規模貸付の最適なやり方は?」

プロセス評価では新規の介入についても分析します。例えば特定の一次医療の施設利用料を抑えることで、特定地域での医療サービスの利用や不可欠な医療サービスへのアクセスが、どのような影響を受けるか等を調査します。



・ 経済コストの計算

M&Eシステムの最後の主要な構成要素は、MVPによるコストと経済的実現可能性の測定です。プロジェクトはコミュニティからの現物支給やMVPのコア資金に加えて、政府や民間の寄付者、さらにパートナー組織から技術的、財政的及び現物のインプットを受けています。様々なインプットの内容と規模は、MVPサイトごとに大きく異なっています。受けたインプットの内容、どこから受けたものか、そしてその価値を記録するシステムは、MVPの費用効果を理解するためにも、また一人当たり120ドルというモデルの上限にプロジェクトがどの程度近づいているかを評価するためにも重要です。

経済的なコストの評価は、価格があるか否かに関わらず、全てのコストについてセクターと利害関係者毎に行なわれ、時間とともに投資がどのように変化するかが記録されます。コストはプロジェクトのもたらす効果とセットで、費用対効果や投資収益の評価に用いられます。

要するに、MVPのM&Eプラットフォームは、実現可能性、影響およびコストといった実世界の実践的な課題と科学的な厳格さとを、地球上でもっとも貧しく支援が難しいコミュニティについて、バランスさせようと試みています。MDGsが達成可能か、また、より重要なことは、達成のために最も実践的で地元にとっても適切な戦略は何であるかといった疑問に答えます。このような包括的な手法を導入することで、MDGs達成を目的とした大規模なプログラムを評価するためのバランスの取れた多様な手法の雛型を、プロジェクトが提供出来るものと期待しています。

M&Eプラットフォームのコンポーネントは、大規模に適用されています。ナイジェリアでは113の地方政府の管轄地域の二千万人を対象に、MVPがMDG関連の進捗を追跡するための技術支援を行なっています。また、チャド（ガーナ北部）、リベリア、モザンビーク、タンザニア、スーダンなど新たにMVsを立ち上げた国々では、同様のM&Eシステムを導入して、MDGをベースとした其々の国家増強プログラムの履行、進捗、コストを追跡しています。

【Ⅲ. 包括的で低コストのモデルの実施】

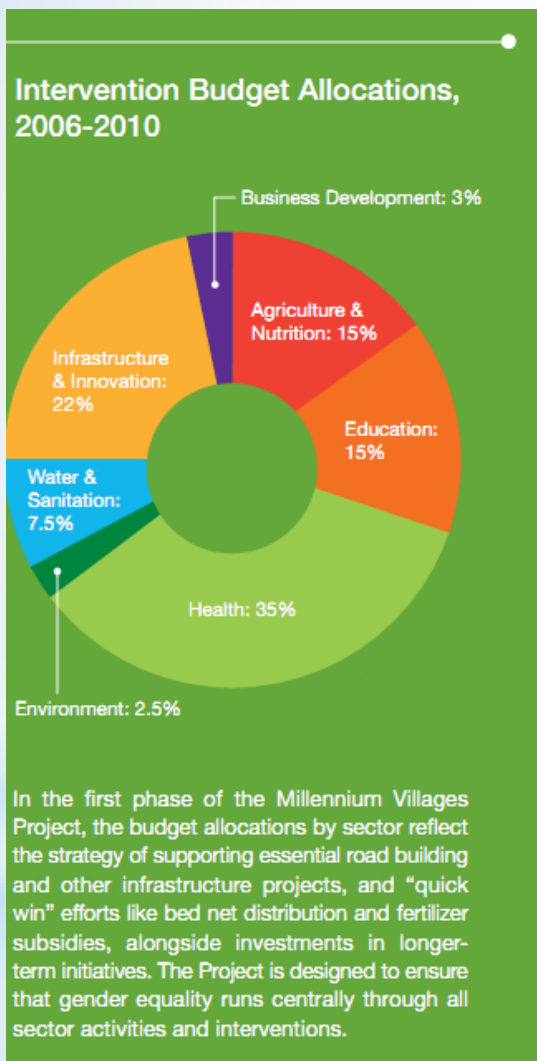
2005年のグレンイーグルス・サミットでは、世界の最貧国（特にサハラ以南のアフリカの国々）に対して基本的な投資を行なうための政府開発援助（ODA）を2010年までにアフリカの住人一人当たりおおよそ90ドルに増やすと、世界の指導者たちが誓いました。また2015年までに国際公約のGDP比0.7%までODA引き上げると欧州連合（EU）が誓う等、支援へのコミットメントはさらに拡大されました。全ての発展途上国についてMDGを達成するための国家戦略を支援するという政策上の大きなブレークスルーは、これらの財政的なコミットメントに支えられています。

MVPはサハラ以南のアフリカの十カ国14サイトの50万人近くの人々に働きかけています。第一フェーズの5年間は、政府、コミュニティ及びその他のパートナーを含む全資金提供者の拠出からなる年間一人当たり120ドル（総額4,800万ドル）のプロジェクト予算のうち、半額の年間一人当たり60ドル（総額2400万ドル）をMVPがコアの介入予算として提供しました。そして一人当たりの予算120ドルのうち、110ドルがMVPの農業、教育、保健医療、インフラ、男女平等、およびビジネス開発への介入に直接当てられ、残り10ドルは各MVPサイトの現地スタッフがビレッジをベースとしたシステムのリーダーシップをとれるようその定着、訓練、および手当に当てられました。ソロス・ファウンデーション・ネットワーク（Soros Foundation Network）はMVPの第一フェーズの予算に年間1,000万ドルを5年間にわたり拠出しました。

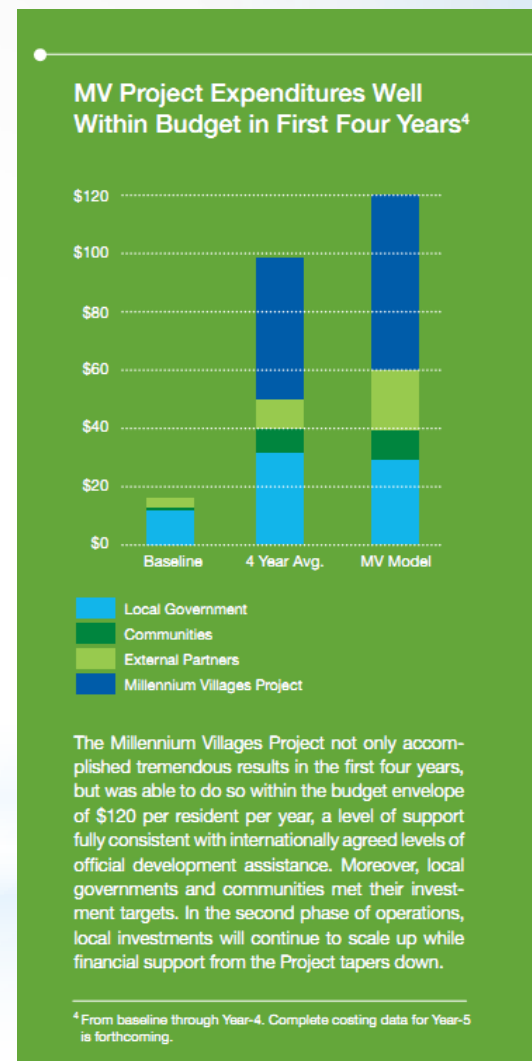
プロジェクトが2006年に立ち上げられた時の直接支援の予算は年間一人当たり60ドルで、さらに一人当たり60ドルが現地政府（30ドル）、パートナー（20ドル）およびビレッジのコミュニティ（10ドル）からの拠出予算でした。第二フェーズではMVPからの支援割合を減らし、政府がそれにとってかわる予定です。

コミュニティをベースとした投資の拡大提案は、国連事務総長が招集するMDGアフリカ運営グループのレポート（MDG Africa Steering Group Report、2008年7月）に詳しく記されている政策合意に沿っています。この政策合意はアフリカ連合（African Union）にも採用されています。2002年のモンレー開発資金国際会議（Monterrey International Conference on Financing for Development）や2005年のG8グレンイーグルス首脳会議で約束されたとおりに全てのセクターで国家および国際プログラムの拡大が実現されたならば、MVPが想定している水準の国家レベルの投資が可能になります。

介入予算の割り当て 2006年から2010年まで



一人当りの予算源 2006年から2010年まで



ミレニアム・ビレッジからのレポート



・ティビィ（マリ） ～安全な水がより身近に～

「水道システムが新たに設置されるまでは、雨水を衣服でろ過して飲んでいました。でも今では井戸や水道システムが作られ、水を原因とする病気が減りました。」（ティビィのMV、コミネ・ビレッジの長、ママフィン・クーリバリーの言葉）

この乾燥した地域では、水は非常に貴重でなかなか手に入らない資源です。水が不足していると、一般的に女性や子供が最も被害を受けます。彼らは保護されていない水源を求めて、しばしば長距離歩かなくてはならず、また下痢などの水を原因とする病気になった子供たちの面倒も見なくてはなりません。これらは重労働であると同時に、生産的な活動に従事する時間を奪います。

ビレッジの住人やオンリー・ザ・ブレイブ（Only the Brave）や水道管を寄贈した米国の製造業者JMイーグル社（JM Eagle）などと連携し、MVPはティビィの各地で井戸を掘り、ポンプを設置・建設しました。今日では7万人の住人の40%が改善された水にアクセスできるようになり、プロジェクトはそのカバレッジをさらに広げています。



・ポトウ(セネガル) ～経済成長の大躍進をリードする女性～

企業家として成功しコミュニティの支援に情熱を持ったティアマ・ディアウは商店主であり、125人の女性で組織する企業家協会 ボク・ジャム (Bokk Jamm) の代表でもあります。ボク・ジャムは現地語であるウォロフ語で「決意」または「プライドを持って一緒に」を意味します。

従業員に顧客対応を任せ、ディアウが協会の仕組みについて話してくれました。この女性企業家団体は利益をプールし、そこからメンバーに貸し付けを行なっています。借りたお金をハイビスカスの栽培から調理用レンジの生産まで、様々なビジネスに再投資する人もいれば、学校の授業料や家の改築に使う人もいます。

協会は資本へのアクセスを提供するとともに、MV全域で農業技術、栄養、資金管理、その他の重要な技能について訓練の機会も提供しています。ともに働き学ぶことで、女性が強い連帯感や自信を与えられたとの思いを持つことが出来た、とディアウは繰り返し語りました。

努力と利益をプールすることで、女性たちが決意とプライドを持って一緒に行動し、コミュニティを極度の貧困から脱出させるためのリーダーシップをとっているのです。



・ルヒイラ（ウガンダ） ～健康と希望をもたらす助産師～

MVPの最大の成功物語の一つは、ルヒイラの母子のための健康保健の改善です。このビレッジでは、トミー・ヒルフィガー財団（Tommy Hilfiger Foundation）等のパートナーの支援により、ルースは陣痛が始まるとヘルスワーカーからルヒイラのニヤキトウンダ・ヘルスセンターに行くように言われ、そこで彼女の双子が逆子であることを助産師が発見しました。彼女はMVの救急車で熟練したヘルスワーカーのいるカブヤンダ・ヘルスセンターの手術室に運ばれ、プロジェクトのパートナーであるGE社が提供した緊急用産科機材を使って、無事に双子を出産することが出来たのです。

HIV感染者のルースは妊娠中から出産後も、どのようにして健康状態を保ち、母子感染を防ぐか、定期的にカウンセリングを受けていました。このような定期カウンセリングと帝王切開により、98%以上の確立で双子のHIV感染が防げるのです。

➤ イノベーション

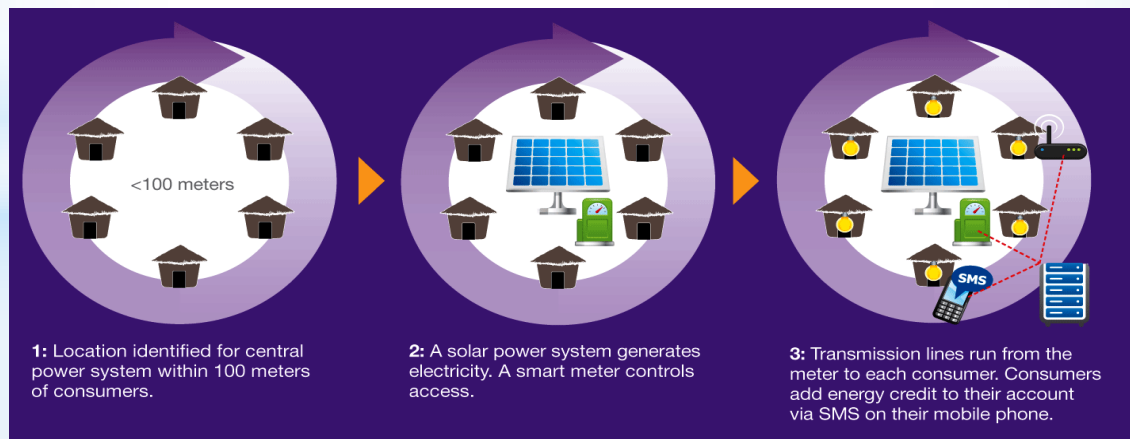
～技術的なブレークスルー、イノベーションの影響～

近代的なエネルギー、輸送、通信サービス、水および公衆衛生へのアクセスを、2015年までに大幅に増やすため、MVPはアフリカ大陸全域のコミュニティに対して、実証済みの技術と革新的な解決方法を合わせて導入しています。

世界トップレベルの科学者、エンジニア、公衆衛生の専門家や教育者がMVPを通して協力しあい、極度の貧困を撲滅するための真に革新的な解決策を生み出しています。エネルギー効率のいい技術の導入から携帯電話革命の利用まで、MVPはこれらイノベーションをサハラ以南のアフリカの何十万もの人々にもたらす媒体として機能しています。

将来に目を向けると、エネルギーやインフラ関連のイニシアティブが、プロジェクト期限を超えて継続されるよう、MVPは持続可能性やメンテナンスの問題への対処にコミットしています。そのための試みには、インフラの状況を報告するための情報システムの強化や、技術や道路の監視へのコミュニティの関与の強化等の戦略が含まれます。

維持可能性のためには、長期的には規模の拡大が必要です。そこでMVPの主要な目標は、関連政府省庁やその他の利害関係者と協力して システムチックにメンテナンスを計画し、あらゆる側面でMVやその他の地域でも規模の経済を享受できるようにすることです。



【Ⅰ. 開発を促進するための新たな技術の適用】

新技術のメリットを活用して、開発課題に対する解決策を見つけることは MVPの主要な側面です。たとえば、平均的な家庭は年間の燃料予算のほとんどを非効率で高価なエネルギー源である灯油に使っているということが、 MVPの実施前調査で分かりました。それに対し、MVPは充電式の太陽電池を使った携帯用LEDランタンを導入しました。市場を基盤とした手法を導入して、ビレッジの業者が小売価格でランタンを売ることによって、新技術は家庭、学校やヘルスセンターに効率的な照明をもたらすだけでなく、地元企業家精神を育てます。

都度払いの水道水や太陽エネルギー・システムからエムヘルス (mHealth platform) ・プラットフォームまで、多くの技術革新がMVPの進展を支えています。

【Ⅱ. 新たなツールと技術の利用】

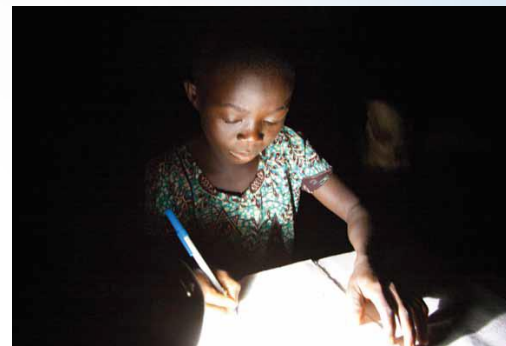
実証済みの介入とともに、MVPでは長く未解決だった開発課題に対して、新たな解決策を導入しています。地球研究所の研究者や技術者、そして他の機関が開発した革新的なツールや技術を活用して、MVPは極度の貧困を撲滅するための新たな取り組みのインキュベーターとしての役割を果たしています。携帯電話やネットワークのカバレッジの急速な拡大は、あらゆる場所で開発を支え、また携帯電話の技術はMVPが開発した多くの革新的なツールやシステムの基盤技術となっています。世界に何十億もの携帯電話の利用者がおり、サハラ以南のアフリカでも三億三千万もの利用者がある中、情報通信技術 (ICT) は人々の生活を変え、今日の世界の経済発展の機動力となっています。

MVPは全てのセクターの活動に携帯技術を取り入れようとしています。第一歩は、主要なMVPのパートナーであるエリクソン社と協力して、学校、診療所、ICTキオスクなどの主な公共施設において、基本的なデータ接続を可能にし、携帯電話のネットワーク接続を拡大することでした。

そこでは驚くべき効果が見られました。遊牧生活を送る畜産業者は、市場に家畜を売りに出すかどうかを決めるのに、携帯電話で価格をチェックするようになりました。学校も以前であれば電気がないため太陽が沈むと子供たちを家に帰していましたが、現在では太陽光パネルで明かりをともし、無線の3Gインターネット接続機能を搭載したエネルギー効率のいいコンピュータを使うことも出来ます。またコミュニティ・ヘルスワーカーはチャイルド・カウント+ (ChildCount+) のような携帯を利用したヘルスサービスを使って、以前より質も高く効率的な医療ケアを提供しています。多数のツールやシステムが新たに導入されましたが、その多くはMVPが開発したものであり、地域内で、さらに全国的に普及されました。

・ 太陽ランタン

MVsの住人のほとんどは、従来は陽が落ちた後の住居内の照明に、高価な灯油を燃やさなくてはなりませんでしたが、灯油に代わるコスト効率の良い照明としてランタンが提供されました。ランタンはLEDを使い、太陽熱電池を電源とし、同じ電池で携帯電話の充電も行なえます。MVPは小規模会社の設立を支援し、村の業者がランタンを輸入して住民に売れるよう訓練も施しています。現在複数のサイトで入手可能な太陽光ランタンは、低コストで、より長持ちする、より明るい照明です。



・ シェアード・ソーラー (SharedSolar)

シェアード・ソーラーは、送電網の延長が難しい遠隔地に太陽電気を届けるシステムです。家庭や企業は広く普及している携帯電話の時間買いと同様のモデルを使った前払い方式を使って、電気料金を支払います。シェアード・ソーラー・システムはティビィ（マリ）、ムボラ（タンザニア）及びルヒイラ（ウガンダ）で導入され、前途有望な初期結果が見られました。



・ 改良型調理用レンジ

MVPの改良型調理用レンジ・プログラムは、伝統的な三石火（three-stone fires）に代わる、より燃料効率のよい熱源を求める試みです。管理環境下での調理テストや調査の結果を受けて、MVPは燃焼効率がよいだけでなく現地の調理の好みにあった技術を推奨しています。家庭販売用の改良型調理用レンジを製造するために、業者を訓練したり、協同組合の強化も行なっています。



・ 長期残効型蚊帳 (Long-lasting Insecticide-treated Mosquito Nets; LLINs)

MVPはそのプロジェクト初期に 殺虫剤を施した長期残効型蚊帳の世界トップメーカーである住友化学と組んで、世界のマラリア予防の大転換に貢献しました。2006年以来、住友化学は 全てのMVの全ての寝床を網羅するために七万以上のオリセット（Olyset）を寄付し、ノバルティス社（Novartis）が提供したマラリアの治療薬と合わせて、プロジェクト全体でマラリアの罹患率を70%減少させました。



・ チャイルドカウント+ (ChildCount+)

この画期的なソフトウェアは、コミュニティ・ヘルスワーカー（Community Health Workers; CHWs）によって使われ、エリクソン社がMVサイトに提供した接続を利用して、子供や新生児の健康状態をショート・メッセージ・サービス（SMS）のテキスト・メッセージを使って追跡します。このシステムを使ってCHWsは患者の栄養状態、予防接種や子供の一般疾患の兆候を監視することができます。チャイルド・カウント+のプラットフォームは今日までに プロジェクト全体の五歳未満の子供の90%を含む14万の患者を登録してきました。



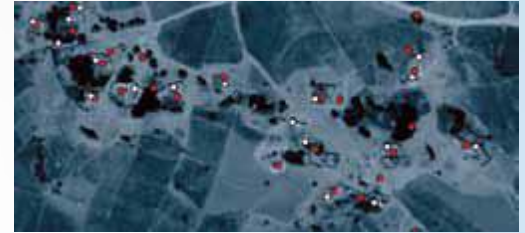
・ 統合的土壌肥養度管理

誰もが肥料や改善種子にアクセスできるようシステムを構築し（最初は補助金を与えて、その後は段階的に資金の融資に切り換えて）、さらに農家に技能訓練を施すことによって、MVPの開始当初の数年で作物生産が増大し、食の安全が改善され、商業的農業への道が開かれました。有機的なインプットに土壌保全技術と無機質肥料を組み合わせた統合的土壌肥沃度管理が高い生産高の維持に役立っています。



・ インフラ・ネットワーク・プランナー

空間データ、モデリングのための主要変数およびコスト最適化のための地理空間的アルゴリズムを使うこのツールを利用して、コスト効率のいい長期のインフラ計画をたてることができます。またアクセスのない集落に電気を供給する最適の方法は何かといった疑問にも答えることもできます。実際ガーナ、ケニアやセネガルで電力計画をたてる際にはこのツールが使われました。



・ コミュニティ・ヘルスワーカー

(Community Health Worker : CHW) システムの充実

プロジェクトのコミュニティ・ヘルスワーカー・システムは、専門的なヘルスケアを家庭に直接提供し、ヘルスセンターと遠隔地のコミュニティに住む家族を結びつけます。CHWはワクチン、栄養補助食品やマラリア検査から、出産前検診や新生児のケアまで、基本的なサービスを提供します。CHWシステムはチャイルドカウント+のような革新的なエムヘルス・ツールやエリクソン社の提供する接続によって支えられています。



・ バーバル・オートプシー

(Verbal Autopsy : 口頭による検死)

シニア・レベルのCHWは、5歳未満の子供と妊娠・出産が可能な女性の死全てについて、検死を行なうよう訓練を受けています。該当者が死んだ環境とのおおよその原因を特定するために、質問票が近親者またはケアテーカーに配られ、検死は死から数週間以内に実施されます。このアルゴリズムを使ったツールは、診療所のスタッフやCHWがヘルスケアの提供システムの欠陥を特定し、システムを改善するために介入を調整し、回避可能な死を避けるための、リアルタイムの管理ツールでもあります。



➤ 第二フェース 2011年～2015年 ～前進するミレニアム・ビレッジ・プロジェクト～

MVPは次のフェース（2011-2015）でも、以下の4つの戦略的優先課題を通して、2015年までのMDGsの達成に向けて注力していきます。

- ・ ビジネス開発の支援
- ・ リアルタイムの情報システムのデザイン
- ・ オープンソースのツールと技術の開発
- ・ 完全な地元によるオーナーシップへの移行



以上の優先課題を支えるのは、新たな資金モデルです。すなわちプロジェクトからの資金拠出を徐々に減らしつつ政府や外部のパートナーからの資金を増やし、同時に自らの開発を持続的に支えていけるよう、コミュニティ自身が資金力をつけていくというモデルです。

【I. ビジネス開発の支援】

民間による農業ビジネスの開発を支援して、自律的な経済成長を根付かせることは、今後5年間のプロジェクトの最優先課題です。このような試みを通して、農家の所得を増大させ、バリュー・チェーンの開発を育み、地元の民間部門の高付加価値商品への投資を拡大し、ひいては税基盤全体を拡大することで、社会で継続的に必要とされる経費を賄っていけるようになると考えています。

当初の5年間、プロジェクトはコミュニティや地元政府と緊密に協力して、地元経済の開発のための強固な基盤を作りました。このような初期段階の試みにより、個人及びコミュニティ・レベルの資本ストックが増え、まだ規模は小さいものの民間部門の貯蓄及び投資が増えています。

プロジェクトからの支援で立ち上げられたビジネスには、ガーナのパーム油業者、マリの女性による共同菜園、ケニアの養魚場、マラウイやルワンダのキャッサバ製粉所等があります。プロジェクト初期に立ち上げられたこのようなビジネスが根付き、利益を生むようになってきており、MVPはそこから如何にしてビジネス開発をプロジェクト全般で改善するかを学んでいます。

・ 農業協同組合の設立

今後5年間、プロジェクトは農業組合を使った手法を拡大する予定です。この手法が所得創出の最も強力な機動力であることは実証済みです。総生産高を増大させることによって、組合は交渉力をつけ、市場や融資へのアクセスを最大化することが出来ます。また組合員は農業技術や商慣習の研修を受けることが出来ます。さらに組合員にチームワークや一体感を持たせることで組合は成功を後押しすることが出来ます。

プロジェクトは収穫後の作物喪失を最小限に抑えるために貯蔵施設の改良を行ない、新しい情報コミュニケーション技術を使って最新の市場情報へのアクセスを改善するなど、農業組合を支援しています。現在MVsでは85以上の企業や組合が活動しており、さらに毎月新たな企業等が設立されています。

・ 農業金融へのアクセス改善

メンバーに融資を提供する協同組合型の回転資金提供基金の設立に加えて、プロジェクトはそれまで金融サービスへのアクセスがなかった地域に、銀行や金融機関を誘致することに成功しました。さらに民間部門と協力して、設立されたばかりの協同組合やマイクロローンにも資金を投入しました。これは農業用インプット等のビジネスに必要な物品の購入を融資を通して支援するためです。

想定された金融サービスの枠組みでは、今後5年間で以下の4つの規模で投資が行なわれます。

- ・ 家内企業 (1,000ドル未満をマイクロファイナンスで)
- ・ 中規模協同組合やビレッジ・レベルの企業 (25,000~200,000ドルを共同菜園、日用品販売等に)
- ・ 大規模農業関連企業 (30万ドル以上を油やし処理、大規模蜂蜜製造等に)
- ・ 地元の商業銀行と組んで小自作農金融に対する信用供与を拡大 (ケニアのエクイティ・バンク (Equity Bank) との連帯保証等)

協同組合や外部からの融資が収益性のある経済活動に再投資されることで、持続可能な成長のサイクルを生むきっかけを作ることが出来ます。

・ 市場シェアを高める

農家の所得をさらに増やすため、プロジェクトは様々なやり方で商業市場へのアクセスを強化し、市場シェアを高めようとしています。例えば

- ・ より規模の大きい市場や地域の業者 (例えばガーナのカカオ業者アルマジロ) と農家を結び付ける
- ・ 市場価値の高い作物の生産を拡大する
- ・ バリュー・チェーンを開発する (原料をより付加価値の高い製品へと加工する。例えばミルクをチーズに加工)

コミュニティと民間部門のパートナーからの支援を受けた協同組合を活用した農村ビジネスを成功させることは、MVの持続可能な所得の創出のカギです。





【Ⅱ. リアルタイムの情報システムのデザイン】

今後の5年間の2つ目の優先課題は、プロジェクト・チームにリアルタイムでフィードバックを行なう情報システムを作ることです。多くの低所得の環境下では、MDGsの進展を追跡する情報を地元レベルで入手することはできません。また、たとえ入手出来ても、情報は一方向にしか流れず、入手のスピードも非常に遅いため、脆弱なグループやカバレッジの問題点を素早く特定することはできず、不可欠な介入へのアクセスを改善する為の軌道修正には役に立ちません。

そこで、MVPは完全にオンラインの、今までにない包括的なリアルタイムの情報システムを完成させる方向に向けて、既に進み出しています。このシステムは、スマートフォンやその他のICTシステムと連携されます。完成すれば少なくとも月次で、意味のある正確なデータが入手できるようになり、マネージャーや研究者は、入手した情報を今までと比べて大幅にタイムリーかつ適切に処理できるようになります。

ミレニアム・ビレッジ情報システム (Millennium Villages Information System; MVIS) は、MDGsをリアルタイムで監視するためのインターネットを使った専用のプラットフォームで、オープンソース・システムや携帯電話の革新的な技術を採用しています。

MVISは、複数のコンポーネントから成っています。その中には全ての主要な開発セクター（例えば保健医療、教育、インフラ、水と公衆衛生等）を横断する日々の情報を入手するためのセクター・レベルのパフォーマンス管理といったコンポーネントも含まれます。MVISは、またチャイルド・カウント+やバーバル・オートプシー・システムもデータを取り込みます。

MVISプラットフォームのコンポーネントが統合されることで、異なるシステム・レベル間の情報の流れを大幅に改善し、健康や開発に関する課題を特定し、対処する際の時間を大幅に短縮できます。さらに拡張出来るようデザインされたこのシステムは、MVPに触発されたプロジェクトや国家増強イニシアティブにとっても重要で効果的なシステムで、如何なる場所でも使うことができます。

【Ⅲ. オープンソースのツールと技術の開発】

今後の5年間のMVPの3つ目の優先課題は、全てのMDGsが保健医療、教育、インフラその他の主要な分野で、確実に達成できるようサービス提供システムに精緻化することです。

MVPを特徴づけるものの一つである拡張性のあるシステム一式は、プログラム・サービスともに導入され、MVsに限らずMVPの手法を適用した如何なる場所の農村でも有効性を発揮します。

そのような拡張性のあるシステムの一例が、MVPのコミュニティ・ヘルスワーカー・システムです。

コミュニティ・ヘルスワーカー百万人拡大運動（One Million Community Health Workers

Campaign）は各家庭を訪れ、基本的な予防ケアや治療を施し、国の医療システムと家庭を結びつけ

ます。チャイルド・カウント+や子供の出生や死亡といった重要な事象を追跡するアンドロイド・

ベースの携帯電話システムに加え、コアとなる管理戦略や運用ツールもコミュニティ・ヘルスワ

ーカー・システムを支えています。そのため、農村部で人員を素早く訓練し、支援し、また管理するこ

とができます。プロジェクトは今後このシステムを拡張して、アフリカ全域に百万人のコミュニ

ティ・ヘルスワーカーを展開したいと考えています。

プロジェクトが立ち上げたメーター制のエネルギーや水道システムもまた即時に拡張でき、より多く

の家庭に電力とより安全な水を届けることを可能にしました。例えばシェアード・ソーラーは都度払

いのメーターを使って、送電網でカバーされていない家庭の太陽電気の利用を可能にします。プロ

ジェクトは、また科学技術を利用した教育ツールも開発しています。例えばコネクト・トゥ・ラーン

（Connect To Learn）はエリクソン社と組んで インターネットを使ったダイナミックな学習機会を

中等学校にもたらし、女子の教育にも力をいれています。

上記を含むシステムを精緻化することは、MVsにおけるサービス提供の改善を支えるだけでなく、プ

ロジェクトを国家レベルで展開している政府に対しても、幅広い見識をもたらします。これらのシス

テムは、MVISの発展と連動して、研究そのものにも脆弱な人々にも恩恵をもたらしており、科学技術

の「意味ある利用」の説得力ある実例となりつつあります。

【Ⅳ. 完全な地元によるオーナーシップへの移行】

プロジェクトが10年間に渡ってMVに対して特別な支援を行なう前提として、支援を受けたコミュニティは、その後、MVPから追加支援を受けず 自らの力で前進を続けて行くことが期待されています。そこで、今後5年間の最後の優先課題は、2006年から2015年までプロジェクトが導入した改善されたシステムを、国家および地元政府の支援を受けて、2016年以降もコミュニティが確実に継続するようにすることです。

例えば農業協同組合、医療施設、初等および中等学校、電力網、水道システム等はプロジェクト終了後も機能させ、改善していく必要があります。

しかし、プロジェクトはコミュニティが2015年までに完全に自立することを期待しているわけではありません。各コミュニティは国や地域の政府が提供する公共サービスに依存し続けるでしょう。そこで提供される公共サービスがMVPの行なってきたことを引き継げる質と規模に育つことをプロジェクトは期待し、それを前提に計画を立てています。さらにプロジェクトが立ち上げた農業協同組合が健全に機能することで、所得や農業が今後も改善されることにも期待しています。

2016年以降もMVが成功を継続できるか否かは、MVPだけに依存しているわけではありません。各国がMVPで得た教訓をフルに活用して、その公共サービスの質を自ら拡大出来るよう支援するため、プロジェクトは各国政府と協力しています。また、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（Global Fund to Fight AIDS, TB and Malaria）のような国際開発機関や寄付者が、2016年以降もその大事な役割を確実に継続できるよう、彼らとも協力しています。

2015年末のMVPの終了を念頭に、プロジェクトは国と地方の両レベルの受入政府と協力し、今後の5年間でスムーズな機能移転を行なおうとしています。それは2015年のプロジェクト終了を試みの終了としないためです。これからの5年間、MVPの資金提供が徐々に削減される中、より多くの学校や診療所等の公共サービスが政府に依存するようになるでしょう。主導的役割のスムーズな移行を確実にこなうため、受入政府が時間割を作成します。予算配分についても受入政府と検討していきます。MVPの支援が徐々に減らされる中でも、地方政府やNGOの支援を受けて、関連する公共サービスを維持、または拡大できるようにするためです。



➤ 資金調達モデル

開始当初の第一期5年フェースのプロジェクトの資金調達モデルは、ビレッジ住人一人当たりの年間120ドルを、MVPが50%を負担する一方、政府、コミュニティ及び他のパートナーが残り50%を負担するというものでした。次フェースの5年間のモデルでは、MVPの直接拠出を段階的に削減する一方、政府、コミュニティ及び他のパートナーが削減分の財政的責任を引き受けます。MVPの拠出への依存削減に加えて、今後5年間で、MVPの寄付者の一人当たりのコスト負担割合も減らし、現在の50%から25%とします。2015年までにプロジェクトは完全に政府に移行され、MVPは直接的な財政支援は行ないませんが、コミュニティには親善を目的に留まり、一部のサイトでは調査も続けるでしょう。

最初の5年間で達成したことを活用して、プロジェクトの資金は6年目から10年目までは保健医療、教育、農業及びビジネス開発といったセクターに振り向けられます。保健医療を引き続き支援することは重要です。コミュニティが日々の課題に対処し、生産的な生活のための機会を開拓するためには、人々の健康が基本条件だからです。さらにわずかな料金を要求しただけでも人々、特に母親や子供がヘルスセンターから遠のき危険な結末をもたらす可能性があることを、プロジェクトは目にしてきたからでもあります。

MVPは引き続き教育にも関与していきます。初等教育を全ての子供たちに施すコストよりも、施さないリスクの方が大きいからです。また将来のコミュニティの開発には教育を受けた労働力が必要です。農業セクターでは、MVPは協同組合の設立、ビジネスプランの策定、農家と市場や金融機関の結びつけ、およびビジネス・スキルの開発を支援します。

今後5年間は、地元アフリカ人の管理者の開発にも資金を提供します。これはMVPを進めていく上で必要なことだからです。全サイトで、調査や影響評価を行なう監視・評価チームもこの予算モデルで賄います。オープン・ソサエティ財団（Open Society Foundations）は次フェースについてもMVPとその運営についてパートナーシップを組むことにコミットし、主要なMVPの介入、重要なスタッフの配置、およびプロジェクトの監視・評価活動のために2千740億ドルの拠出を約束しています。

さらにソロス経済開発基金（Soros Economic Development Fund; SEDF）は、MVPの活動で特定された投資に値する事業プロジェクトを支援するために、最高2千万ドルの融資をコミットしています。SEDFは事業プロジェクトの準備、経営支援、および監視についてはMVPに一任します。

ビレッジで最初にSEDFの融資プログラムの適用を受ける協同組合は、サウリ（ケニア）のニュー・ヤラ生活協同組合（New Yala Daily Cooperative）です。プロジェクトはこのサウリの事例を含む様々な事業の進捗を今後報告していく予定です。

➤ 成長の拡大と維持

【I. ミレニアム・プロジェクトの拡大】

サハラ以南のアフリカの政府は、貧困にあえぐ農村部のコミュニティを、持続可能な開発に向けて軌道に乗せるためのMVの手法を支援するプログラムに投資しています。各国のプランは、そのコミュニティのニーズに合わせて異なりますが、全てのプログラムは農業、環境と気候変動、ビジネス開発、教育、健康と栄養、水と公衆衛生、およびインフラといったセクターの課題を解決するMDGsの達成に向けて、進展を加速するよう策定されています。

MVPは、アフリカ東部と西部の2か所のMDGセンターを通して、技術・政策支援を行ない、各国政府がMDGに焦点を当てた介入を国家と地域の開発計画に組み込み、MVPから得た教訓やその最良事例を活用することを支援しています。

・ 乾燥地域イニシアティブ

乾燥地域イニシアティブは、アフリカのジブチから南スーダンまでの乾燥地域に住む牧畜コミュニティの課題を解決するため、2010年7月にスタートされました。このイニシアティブは、水の維持可能性、インフラおよびコミュニケーションに焦点を当て、問題のある現在の生態系に機能する経済圏を作ろうという試みです。東・南アフリカMDGセンターがリーダーシップをとるこの構想は、ケニア北部のダルツのMVをモデルにしています。

・ 緑のサヘル・イニシアティブ

2011年7月、西・中央アフリカMDGセンターは、第一回「アフリカ・ドライランド・ウィーク」(Africa Drylands Week) をダカール(セネガル)で開催し、サハラ周辺地域の土地の劣化、気候変動及び貧困のもたらした課題について話し合いました。この会議は「緑の壁」(Great Green Wall; The Green Sahel Initiative; 緑のサヘル・イニシアティブ)を通して、西・中央アフリカに乾燥地域イニシアティブの基礎を築きました。さらにこのイニシアティブの一環として、MDGセンターは利害関係者と協力し、再緑化を地域の開発計画に組み込むために、複数の国で地域のMDGを拡大する試みを始めています。

ミレニアム・ビレッジ・プロジェクトのモデルは拡大してこそ真価が発揮されます。拡大への努力はすでにサハラ砂漠以南のアフリカ、その他の地域で始まっています。

10年のプロジェクト期間における投資者の実行割合



Countries Working to Scale Up the Millennium Village Approach



・ ベナン

今後5年間、バニコアラ（人口1万5千人）のコミュニティは、対象を絞った複数セクターの介入とMDG西部センターからの技術支援の恩恵を受けることとなります。この同国初のMVは、コミュニティの家計と生活環境の改善を目的とした参加型の手法である同国の貧困削減のための成長戦略に組み込まれています。

・ カメルーン

カメルーン政府はUNDPとMDG西部センターと協業し、また日本政府から財政的支援を受けて、カメルーン・ミレニウム・ビレッジ・プログラム（CMVP）を実施する予定です。CMVPでは二つのビレッジ（南部のメヨメッシと北端のマロウア）のクラスターにいる5万人に働きかけます。プログラムの活動はMDGsを参考にし、同国の成長・雇用戦略の実施に貢献します。

・ チャド&スーダン

イスラム開発銀行（Islamic Development Bank; IDB）は、「IDB持続可能なビレッジ・プログラム」（IDB Sustainable Village Program）の実施に際して、少なくとも2カ国（チャドとスーダン）でMDG東部センターと協業します。この新たに結ばれたパートナーシップの下、IDBとMDGセンターのチームは、特定されたプログラムについて予備的な実施前調査を行います。プログラムは2011年末には実施フェーズに入る予定で、その後さらに対象国を広げる可能性があります。

・ ガーナ

ガーナ政府は、MDGを基礎とした開発課題の達成を目標に、北部地域でMVPを拡大する予定です。これにより、ボンサソのMVからさらに北部地域にMVPを拡大し、アシャンティから北部を経て東北部に至る地域に住む大よそ2万5千人に働きかける予定です。プロジェクトの立ち上げは2011年末までに完了され、介入は2012年初頭から始められる予定です。

・ ケニア

2011年ケニア政府は西部の8地域で国家MDG拡大政策を施行しました。MDG東部センターはこの新しく加わった「MDG地区」のためにMVモデルに沿った戦略の作成を支援し、地域政府の役人に研修を施しました。研修の目的はMDGに焦点を当てた活動の拡大を指揮できる人員育てることです。フィンランド政府から支援を受けて、このイニシアティブはインフラ開発、ビレッジから地域の医療施設への紹介サービスの拡充、および商業活動の推進に重点をおいています。

・ リベリア

ノルウェイ政府の支援を受けて、ココヤのMV（人口2万4千人）は2009年に活動をスタートさせ、早くも農業セクターで前途有望な成果をあげています。米の生産高は0.8t/haから3.0t/haに275%増加しました。この成功によりビレッジの住人の農業協同組合への加入が増えています。

・ マダガスカル

日本と韓国の政府からの初期の財政的な支援を受けて、サイムバイナのMVが2008年に活動をスタートさせました。UNDPを主なパートナーとし、MDG東部センターからも強力な技術支援を受けています。

・ マリ

2008年6月、マリ政府はMDGsの達成に向けて、166の最も食糧供給が不安定なコミュン（地域）を支援するため、MVに着想を得た手法を拡大するための戦略を発表しました。特に北部地域に焦点をあて、大よそ260万人に働きかける「イニシアティブ166」（Initiative 166）は、MDGの施行を加速させるためのセクター横断の大胆で焦点を絞った5年プログラムです。政府はイニシアティブの予算の45%を拠出することにコミットしており、残る55%については寄付者のコミュニティに支援を要請しました。

・ モザンビーク

2011年、MVPはモザンビークの科学技術省と科学と開発の分野において、多面的な協力を行なうことに合意しました。モザンビークはUNDPが運営するMVを既に複数受け入れており、この合意は両者の関係をさらに強めます。協業する分野のひとつは、ナイロビのMDGセンターとニューヨークの地球研究所からの技術・政策面の追加支援です。

・ ナイジェリア

ナイジェリア政府は、大統領MDG関連特別上級顧問室の指揮の下、同国の最貧困地域全域において、MDGsを達成するために、MVPモデルを採用しています。政府も1兆ドル以上を債務救済資金に使い、この拡大計画を全面的に支援しています。2010年3月以来、MVPとナイジェリアのチームは、113の地方政府管轄地域において、全ての既存の学校、診療所及び給水所について、実施前資産とニーズの評価を行ないました。入手されたデータは地域とコミュニティのために特別にデザインされた開発計画の作成に利用されます。

・ ルワンダ

ルワンダの計画・経済開発相は、MDG東部センターと緊密に連携し、経済成長と社会福祉サービスの促進のための政策素案を準備中です。2011年末に公式に採用される予定のこのプログラムでは、416の行政セクターにMV型の介入を拡大します。この試みは公共事業、マイクロ・ファイナンス及びマイクロ・インシュアランスを通して、国民の生活を改善することを目的とした 同国の経済開発・貧困削減戦略の一環として実施されます。

・ タンザニア

タンザニア本土に位置するムボラのMVに加えて、MVPは最近になって漁業を主な生業とするビレッジ初のMVをザンジバルのペムバ島に立ち上げました。グローバルな財務・コンサル会社のKPMGが主な資金を提供し、プロジェクトは7,600人以上のコミュニティで、2011年1月に活動を始めました。

・ ザンビア

詳細な実施前調査とニーズ評価の後、東・南部アフリカの鉱区初のMVが、2011年8月に立ち上げられました。プロジェクトは国際的な採掘会社であるヴァーレ社（Vale）とザンビアの北部に位置するMVで協業しています。コンコラのコミュニティは、銅採掘を主たる収入源にする一方、自給自足農業も営んでいます。今後MVPとヴァーレ社は保健医療、教育及び環境セクターの介入を開始すると同時に、所得創出活動に焦点を当てて行きます。



・ コミュニティ・ヘルスワーカー百万人拡大運動 (One Million Community Health Workers Campaign)

コミュニティで医療ケアサービスを提供するコミュニティ・ヘルスワーカーは、新生児や子供の死の予防での大きな成果と、母子の健康改善に貢献していることで、国際的にも認知されています。2011年5月、UNAIDS、国連MDGアドボカシー・グループ及び国連事務総長事務局との協業により、MVPは「コミュニティ・ヘルスワーカー百万人拡大運動」をスタートさせました。サハラ以南のアフリカで、国家の一次医療システムの一部として 少なくとも百万人のコミュニティ・ヘルスワーカーを展開し、またMDGsを達成するために、製薬会社も複数社支援の輪に加わり、科学的根拠、政治力や資金力を活用して協力しています。

・ コネクト・トゥ・ラーン

コネクト・トゥ・ラーン（Connect To Learn ; CTL）は、新たなグローバルな教育イニシアティブで、中等教育への特に女兒のアクセスと、学校でのブロードバンド接続の拡大を支援しています。このイニシアティブは、また、中等教育を受けるための3年間の奨学金を提供し、学費、教科書、制服、さらにはインターネット接続が可能な技術へのアクセスを支援しています。CTLは地球研究所とエリクソン社とのパートナーシップによるプログラムです。

【Ⅱ．国連とのパートナーシップ】

国連機関、ホスト国政府とパートナーシップを組むことで、MVPは国家レベルで強力なサポートを受けられ、またグローバルな政策課題と同期をとることが出来ます。またビレッジ・レベルで国連のプログラムを施行することは、統合的な開発手法を用い、全セクターにおいて全体として投資を増大できるというメリットもあります。以下に主要な国連機関とのパートナーシップを紹介します。

国連共同（合同）エイズ計画（UNAIDS）と協力して、MVPはビレッジでHIVの母子感染の削減に努めています。パートナーシップの目的は 妊婦のHIV検査のためにコミュニティ・ヘルスワーカーに技術支援を行ない、HIVに感染した母子の生活を支え、さらにコミュニティにHIVを防ぐための教育を施すことです。加えてMVPヘルス・チームは「2015年までに子供のHIV新規感染をなくすグローバルな計画」（UNAIDS Global Plan to Eliminate New Infections Among Children by 2015）の策定に貢献し、現在は教育を受けたコミュニティ・ヘルスワーカーの拡大に力を注いでいます。

国連開発計画（United Nations Development Programme; UNDP）は、MVPの第一フェーズでプロジェクト管理や運営支援を通して、重要な役割を果たしました。次フェーズではUNDPはMVPと協力して、プロジェクトで得た教訓を国家・地域レベルに拡大し、また新たなMVの運営について政府を支援することで、MDGを基礎とした政策を推進・施行していきます。



国連人口基金 (United Nations Population Fund; UNFPA) とMVPは、自発的で安全で効果的なコミュニティを基礎とした家族計画サービスを共同で開発し、全てのMVで適切で最適な避妊法へのアクセスを無料で一般に開放しています。このような試みを通して、両者はリプロダクティブヘルス（性と生殖に関する健康）へのアクセスの広く一般への開放を推進しています。エチオピアではナイキ財団（Nike Foundation）などから寄付支援を受けるコラロのMVでの協業に加え、MVPチームはハウジアン地区でUNFPAが資金を提供するプログラムを実施しています。

昨年MVPはUNICEFと組んで、保健医療のための革新的なツールを開発しました。そのうちもっとも将来性が見込まれるのは、深刻で慢性的な栄養不良の監視に携帯電話を使う技術です。プロジェクトは早期の幼児発育プログラムの実施でもUNICEFと協業しています。

2011年以降、国連プロジェクト・サービス機関 (United Nations Office for Project Services; UNOPS) が、アフリカにおけるMVPの運営のための人事管理サービスを提供しています。UNOPSは毎年10億ドル相当のプロジェクトをパートナーのために実施し、80カ国以上のしばしばもっとも厳しい環境で活動しています。政府、政府内組織、国際的金融機関、NGO、民間部門、財団、および他の国連機関に対し、管理、運営、その他の支援を提供しています。

世界食糧基金 (World Food Programme; WFP) とのパートナーシップの目的は、栄養不足のない地帯をMVで実現することです。例えばこのような目標があります：初等学校で全ての生徒に学校給食を提供する；HIV/AIDS、結核その他の流行病に罹った子供たちの栄養上のニーズを満たす；「前進のための食糧購入 (Purchase for Progress)」プログラム等のWFPのイニシアチブを通して、小自作農と協力して生産性と所得を改善する。

これらのプログラムは素晴らしい成果をあげています。例えばグムリラ（マラウイ）、ムワンダマ（マラウイ）、ボンサソ（ガーナ）の3つのMVの農家が、WFPに売った500トン以上のトウモロコシ（maize）と豆が、食糧支援の必要な周辺コミュニティに配られました。WFPはまた7カ国80以上の学校でMVPの給食プログラムを支援しました。

国際電気通信連合とUNESCOの共同イニシアティブである「デジタル開発のためのブロードバンド委員会」(Broadband Commission for Digital Development)とパートナーシップを組んで、MVPはコミュニティが恩恵を受けられるよう、ブロードバンドと携帯接続の利用のための新たなモデルをデザインしようとしています。例えば教育セクターでは、コネクト・トゥ・ラーンは奨学金やブロードバンド技術を使って 女兒に質の高い教育へのアクセスを提供しています。



➤ 結論

ミレニアム・ビレッジ・プロジェクト (MVP) は、最終5年間の第二フェーズに入っても、その優先課題はミレニアム開発目標 (MDGs) の達成であり、同時に、極度の貧困が長くはびこる世界中の如何なる場所でも再現できるような拡張可能なモデルを作ることです。

最初の5年間の成果を基に、その焦点が食糧の安全と自給自足の農業から、ビジネス開発と商業的農業へと進む中、プロジェクトは今後も国際的な支援のコミットメント内にある現実的な予算に依存します。拡大するパートナーのネットワークは、小自作農家に市場や金融サービスへのアクセスを支援し、また企業家精神も根付き始めています。同時に世界中の国々や寄付者は、MVPがもたらす劇的で前向きな変化に注目し始めています。

コミュニティにとって、これは明るい未来の幕開けです。プロジェクトの最初の5年間で、コミュニティは持続可能な開発に向けての第一歩を踏み出しました。今日、MVsはこれまでの多大な努力の成果物を手にし始めており、保健医療、教育および経済的福祉も改善されています。国家政府にとっては、プロジェクトの革新的な手法に学んでそれを活用し、MVPの技術的な支援を受けて介入を拡大し、さらにそれらを国家MDG計画に取り込む絶好の機会が訪れています。パートナーにとっては、コミュニティと関係を構築し、まだ立ち上がったばかりの市場や将来有望な人的資源にアクセスする絶好のチャンスです。

そして、MVPチームにとってはプロジェクトを監視・評価するためのツールやシステムを強化し、ビレッジから科学的データを収集し、それらを専門家の論評する刊行物で公開するよい機会です。最終的にはMVPの10年間で得られた教訓、導入された技術及び進展の記録は、国家チームの手に留まり公のものとされ、あらゆる地域で拡大努力のために利用されます。MVPは、今後もMVsの住人が日々推進している驚くべき変革を支援していきます。2015年までにMDGsが達成され、我々が死を迎えるまでに極度の貧困が撲滅されるよう、プロジェクトは全パートナーの支援を受けて始めたこの活動にコミットしていきます。

翻訳：NPO法人ミレニアム・プロミス・ジャパン
加藤尚美（ボランティア）

〒113-0033東京都文京区本郷2-27-6-901

[TEL:03-5842-2801](tel:03-5842-2801)

FAX:03-5842-2802

mpjapan@drive.ocn.co.jp

<http://millenniumpromise.jp>